

風土記の丘の花だより²⁶⁶

今、そしてこれから見られる植物(2025年3月29日)

いよいよ春になってきましたね。これが令和6年度最後の花だよりです。こんなに続くなんて思ってもいませんでしたが、読者の皆さんのおかげでここまでくる事ができました。ありがとうございます。この季節、花がいっぱい咲き出して、どれを紹介しようかと悩みます。



まず、風土記の春の風物詩ともなっているハクモクレンから紹介します。これをご覧になる頃には落花が盛んになっているかも知れません。入り口の大きな木に「コブシ」という名札がついているので、このあたりに咲く白い花が全部コブシかと思いがちですが、先に咲き始める大きな花の方がハクモクレンで、あとから咲く小さめの花がコブシです。遠目では、どちらも同じように見えますが、花を近くで見ると違いがよくわかります。コブシには、花の付け根に小さな緑の葉が一枚ついています。



このアミガサユリも咲くのを心待ちにされている方が多い花の一つです。小早川家の庭や、万葉植物園に植えられています。うつむきがちに咲いた花を下から覗くと、網目模様が見えます。それでこの名前がついています。別名をバイモ(貝母)とか、バイモユリとかいいますが、それは、球根が二枚貝のような形をしていることによります。昔、中国から薬草として持ち込まれましたが、花が清楚で、美しいので鑑賞のために栽培されるようになりました。小さな細い蔓(つる)も観察してください。



柳川家北の道沿いでボケの花がきれいに咲いています。名前こそパツとしませんが、とてもきれいな花です。古い時代に中国から入ってきた花木で、漢字では木瓜と書きます。その読み方「もっか」が訛ってボケになったという説があります。いろいろな品種があり、真っ赤から真っ白まで様々な花があります。花が興味深く、雌しべと雄しべがある花と、雄しべだけの花が混ざって咲いています。興味があったら、刺に注意しながら観察してみてください。



白くて小さなヒメウズの花です。日当たりの悪い所に、控えめに咲いているので、普段は余り気に留めないことでしょう。でも意識して見てみると、案外たくさん咲いていることに気づきます。植物の名前に付く「ヒメ」は小さいとか、弱々しいとかいう意味です。ですからこれは「小さなウズ」ということです。ウズは烏頭と書き、猛毒で知られるトリカブトのことなので、ヒメウズとは「小さなトリカブト」という意味の名前なのですね。

松下